

ひょうご

県知協

NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行 一般社団法人  
兵庫県知的障害者施設協会  
〒651-0062  
神戸市中央区坂口通 2 丁目 1-1  
兵庫県福祉センター 5 階 502 号室  
TEL (078) 862-6026  
FAX (078) 862-6082  
E-mail: hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp  
発行責任者 蓬 菜 和 裕  
印刷所 交友印刷株式会社

## 半世紀にわたるお支えに感謝して

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会

会長 蓬 菜 和 裕

一般社団法人「兵庫県知的障害者施設協会」は平成 24 年 7 月、設立 50 周年を迎えました。50 周年記念式典の開催にあたり、公務なにかとご多忙中にもかかわらず、兵庫県から井戸敏三知事、神戸市から矢田立郎市長をはじめ、多くの、ご来賓のご臨席を賜り、心から感謝申し上げます。「ありがとうございました」

昭和 37 年 7 月、三田谷治療教育院の飯島十郎氏を会長、武庫川児童園の堀口潤一郎氏を幹事長として、兵庫県精神薄弱者施設連盟が誕生しました。そして 50 年。この間の知的障害者を取り巻く動きは、障害者の権利運動と言っても過言ではありません。理念は変わろうとも、設立当初から、私たちの団体の思いは 1 つです。それは、障害を持った人たちが幸せに暮らし、いい人生だったと振り返ることができる支援を提供することであり、今後も変わらないと思います。

私は、この協会が好きです。会長として嫌いとはいえませんが、なぜ好きかという「バランス」がいいからです。私たちの協会は、事業者の集まりです。入所、通所、GH、就労等、現行の自立支援法の事業をほとんど網羅しています。平成 15 年の支援費制度、平成 18 年の障害者自立支援法、措置から契約へ、市場原理の導入により、競争を煽られ、施設ではなくなり事業でくられました。主たる実施事業で地域系、就労系、施設系と事業所や施設長を陰で分けられていると聞きます。仮にそうであっても私たちの協会はこれら全てを考えなくてはなりません。だから、バランスがいいのだと思います。反面、厳しさが無いという批判があることも事実です。是は是、非は非として受け止め、今後も 50 年の歴史に恥じないよう活動を行って行きたいと考えています。

平成 7 年の阪神淡路大震災において、私たちの協会はいち早く体制を整え支援に当たりました。このときほど、組織の力を痛感したことはございません。「兵庫は一枚岩、近畿は 1 つ」はこのときの教訓から生まれました。東日本大震災においても、阪神淡路大震災の教訓を元に宮城県の協会の本部支援を行いました。

設立当初 11 事業所であった協会員は、現在 200 事業所を超えました。法人化を果たした今、会員の皆様から、「協会に加盟して本当によかった」と言われるように、活動方針をしっかりと立て、支援費制度、障害者自立支援法、障害者総合支援法、税と社会保障の一体改革等、第 3 ステージ、第 4 ステージと続く改革に会員の皆さんと共に手を取り合い、一枚岩となって取り組んでいきたいと思っております。50 周年の節目に井戸敏三知事より、表彰の栄を賜りましたことは、これまで半世紀の永きにわたり、知的障害者福祉の向上に努力してきた賜です。全ての会員と喜びたいと思います。そして、知事はじめご来賓の方々に、今後も知的障害者支援に邁進することをお誓い申し上げます。今日、ご臨席賜りましたご来賓の皆様、今後一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。簡単ではございますが主催者挨拶と致します。





# The 50th Anniversary Ceremony

## 第1部 式典

開会の挨拶 総合司会 原 由美さん  
 オープニングピアノ演奏  
 演奏者 高木雅樹さん、福田正人さん  
 曲目紹介 新原慶子さん



### 主催者挨拶

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会  
 会長 蓬菜 和裕



### ご来賓祝辞

兵庫県 知事 井戸 敏三 様  
 神戸市 市長 矢田 立郎 様  
 社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会  
 会長 武田 政義 様  
 財団法人 日本知的障害者福祉協会  
 会長 橘 文也 様  
 社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会  
 理事長 北原 守 様

(公益財団法人兵庫県手をつなぐ育成会 理事長 小原 冷子様)



### 表彰状と感謝状の贈呈と謝辞

兵庫県から施設協会への表彰  
 施設協会から歴代功労者への感謝

社会福祉法人 陽気会	理事長 松端 利昌 様
社会福祉法人 春秋会	理事長 金附洋一郎 様
社会福祉法人 三田谷治療教育院	理事長 堺 執 様
社会福祉法人 みつみ福祉会	理事長 婦木 治 様
社会福祉法人 上野丘さつき会	理事長 井上 勝彦 様



### 施設協会50年の経過報告

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会  
 副会長 福田 直真

## 第2部 記念講演

### 演題

『地域主権時代における社会福祉法人の  
 あり方と地域自立生活支援』

日本社会事業大学大学院 特任教授 大橋 謙策 先生

### 終了の挨拶

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会  
 権利擁護委員長 福田 和臣



## 一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会 創立五十周年記念

## 日韓障害者施設交流セミナー

杭瀬福成園 施設長 宮下 哲

昨年度より、「次年度は、県知協も 50 周年！形に残せるような素晴らしい企画を持ちたい。」との蓬莱会長の号令の下に、第一弾として、近隣諸国の福祉事情を学ぶことにより、我が国の事情を客観的に見つめることが出来るのではと、県知協の事務局職員を中心に、韓国を候補地として企画しました。

韓国との福祉交流は、県社協が先駆的に取り組まれているという事もあり、県社協の福島部長様、宿院主事様のご協力を得て、1 日目の講演会ではイム・テソン氏、2 日目の施設見学には現地コーディネーターの中山雅恵さんをご紹介頂きました。

今回の日韓障害者交流セミナーの感想につきましては、参加された 4 名の皆様の記事をご参照頂きますことといたしまして、私の方からは、概要について触れさせていただきます。

初日の講演会の講師、イム・テソン氏は、社会福祉法人ソリム福祉園園長で、公州大学を含め複数の外来教授を務められています。講演の中では、施設生活における知的障害者の Rapport 形成（心理学で、人と人との間がなごやかな心の通い合った状態であること。親密な信頼関係にあること。）や、韓国における障害者人権保護システム、性と結婚の問題、施設運営の民主制等、多岐にわたり韓国の知的障害者施設の争点と展望をお話し下さいました。

中山雅恵さんは、福岡出身で日本の大学で多文化福祉を専攻され、特養で相談員として勤務されていました。結婚を機にソウルに在住されています。2 日目の施設訪問では入所施設に同行して頂きました。福祉を専攻、従事されておられましたので、福祉の専門用語を的確な通訳とコーディネートをして頂き、入所施設の取組み以外にも韓国の福祉現場の生の声を聴くことができました。

2 日目、訪問先の入所施設『社会福祉法人「手と手」イエリム院』と、通所施設『社会福祉法人「ソナム福祉財団』の各施設長様をはじめ、スタッフの皆様にも温かく受け入れて頂きました。スタッフの方が、我々が訪問するのを前提に、事前にパワーポイントで資料を作成し、言葉が通じなくても視覚的にわかりやすい様な設定を下され、流石福祉に従事されている方々だと感銘しました。

今回のセミナーによって、参加された各々のメンバーとの交流も深まり、兵庫県下の事業所間のネットワークがさらに広がり、二次的な効果も発生したのではと思われます。参加された皆様のアンケート結果を見ても、「我が国の福祉事情を客観的に捉えることができた。」「韓国の現状が分かり、文化や制度の違いが勉強できた。」「視野を広げることができた。」「他の事業所の職員さんと情報交換ができた。」等々肯定的な感想が多く、企画側としても、実施できて良かったと胸を撫でおろしました。余談ですが、研修後の余暇時間等を利用して、参加者の皆さん各々で、韓国の文化等にも触れられて満足していただけたとも聞いております。

蓬莱会長は、「近隣諸国の事情を知る事によって、自国の事情を見つめ直すことができた、とてもいい企画だった。次年度もこのような海外でのセミナーが…」と、後半部分については、笑いながらおっしゃられ、プレッシャーに感じましたが…。次回は五十五周年か六十周年の際に、企画側ではなく、参加者として手を挙げさせていただければと思います。今回のセミナー開催に関しまして、多大なるご協力をいただきました、県社協の福島部長様、宿院主事様、イム・テソン氏、中山さん、近畿日本ツーリストの榊原さん、入所、通所施設の施設長様、現地スタッフの皆さん、ツアーガイド兼通訳の朴さん、参加者の皆様、書ききれませんが、関係して下さった皆様方に深く感謝を申し上げます。





# 日韓障害者施設

## 「隣の国から日々の支援をふり返って」

ライフセンター神戸 支援課 天野 純子

アンニョンハセヨ。知っている韓国語は挨拶を少し。そんな私が、勤務先であるライフセンター神戸の施設長に「こんな研修があるんだけど、どう？」と尋ねられ、反射的に「いきます！」と返事をしたことがきっかけで、今回の研修旅行で素晴らしい体験をすることができました。

まず、韓国という食べ物を楽しみでした。移動バスのなかでは現地ツアーコンダクターが「韓国ではお皿は持ち上げてたべません。」と注意をしてくださいましたが、いざ食べ始めてみると、私を含め多くの方が日頃の癖でお皿を手にして持ち上げて食べていました。施設で勤務中に食事支援をする場合には、何度も繰り返して利用者さんに声をかけることがあります、ときどき「何度言えばいいのだろう？」とうんざりすることがあります。しかし、人の癖というものは数回注意されただけで直ぐに改められるものではない、ということが韓国での食事によくわかりました。普段、私が当たり前と思っていることも場所が変われば異なり、それに慣れることは大変だ、ということが実感できたことは良かったと思います。

セミナーでは、「韓国の知的障害者施設の争点と展望」について、人権や脱施設化に対する取り組みや、施設運営について伺いました。お話の最後に、講師であるイム・テソン氏の施設で配布される給与明細に記されている言葉「この給料は私どもの施設障害者が支給しています。もし、私どもの施設生活障害者が私たちを選んでいただかないと我々は大切な職場を失ってしまいます。」を紹介していただきました。これは韓国でも我が国同様に、現在は利用者が施設を選ぶ時代が来ている、ということを表しています。私の職場でも同様のことが日頃から言われ、支援の姿勢を自問するように呼びかけられてはいますが、韓国の施設での給与明細にまで記す徹底振りには驚きました。

翌日の施設見学では、入所施設を見学させていただきました。建物は美しく、部屋も広々とし、きれいに掃除が行き届いて快適そうでした。仕事を行う場所も見せていただきましたが、利用者の皆さんがきちんと静かに座って作業を行っていました。「知的障害の重度の方」がいらっしやると伺っていましたが、日本と基準が違うようで、施設の方の説明については少し納得しにくい部分もあったのが正直な気持ちです。一方、仕事を確保するために専属の営業スタッフがいることにはとても感心しました。日本でも、障害のある方の社会参加のために、仕事や何か社会に還元できる活動をより積極的に施設や作業所にもちこめる制度や人員配置が可能になれば良いと思います。

今回の研修旅行では、現地の情報を入手することは大切な目的でしたが、県内の他施設の方と知り合い、今後も継続的に交流を行うきっかけを得ることは、私の大きな目的の一つでした。勤務先の中だけで仕事を完結させることなく、外の広い世界を見て、いろんな施設の良い所を見て、良い所を参考し自らの支援を省みることは、よりよい支援を行う上で大切なことだと考えています。私はまだ支援員経験が2年と浅いのですが、この時期に国内外の他の施設について知ることができたこと、人との繋がりができたことは、とても意味のある経験でした。今後はこの経験を日々の支援に活かし、よりよい支援を考え実行していきたいと思っています。

## 「日韓障害者施設交流セミナーに参加して」

春日学園 足立 瑞希

今回の研修で、私にとって海外に行くことが初めてでした。しっかりと勉強しようという気持ちと共に、参加させていただく前からとても楽しみにしていました。

研修にて韓国の福祉の現場を見せて頂き、ご利用者の自立に向けた支援や、作業の様子等見させて頂き、日々の支援を改めて考えることができました。また、兵庫県内の各施設の施設長さん、職員さんとお話をさせて頂く機会もあり、会話の中で、自分自身が思うことを話し、意見等、教えていただきました。また、様々な方から貴重なお話を聞かせていただき、とても刺激を受けました。

研修だけでなく、韓国の世界遺産の見学等、韓国の文化に触れることもできました。様々なことを勉強させていただくと共に、楽しく過ごさせていただきました。

研修で学んだ事や、交流させていただいた事を今後の自分に活かし、ご利用者にとって楽しく過ごしやすい生活を送っていただくように、サポートしていきたいと思っています。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

# 交流セミナー



## 「韓国旅行に参加して」

わかたけ福祉会 相談支援専門員 杉原 一信

篠山市にあります社会福祉法人わかたけ福祉会からは、知的障害者施設協会の企画される海外催事には初めての参加をさせていただきました。正直、個人的には 15 年振り位の海外旅行で、パスポートを取得しなおすことからでした。又、兵庫県下の施設の方々との交流や意見交換なども含め、見識を広げられたらよいなあと思いついて参加させていただきました。

初日の研修は韓国の大学の先生でありながら社会福祉法人の園長も務められている、イム・テソン氏による「韓国の知的障害者施設の争点と展望」についての講義でした。

講義内容としては、①施設内の取り組み。施設内で行われているプログラムが個人的なことよりも、集団で行われることが多いので、個人のニーズによるサービス提供がおろそかになる可能性がある。しかし、やはり個人のニーズによる取り組み内容を大事にサービスを提供していくことが求められているという内容でした。

その他、②障害者の性の問題 ③韓国の法制度状況 ④韓国人の障害者に対する認識水準 ⑤政府支援の現実と限界など多岐にわたる内容でした。韓国の宗教の教えなどによる部分もあると思われませんが、なるほどと感じたのは、そこで働く職員の処遇がよくならなければ、良い支援は行えないなどと話されたことでした。

翌日は、通所施設見学でした。プピョン障害者総合福祉館で児童養護施設・老人養老院・保育園を運営されています。特に医療支援・教育支援・職業支援・社会心理支援の専門的な総合的な支援サービスを通じて障害者の潜在能力を最大限発揮するように支援し、障害者の多様な欲求を満たすのと自立生活支援などで社会構成員の一人として幸せな暮らしができるよう、又、地域社会に理解を広報していく役目を持たれている施設でした。

一日に児童から成人まで約 300 人が利用される通所施設です。国からの援助だけでは経営や支援が成り立たないため、常時ボランティアの方も多数おられます。基本的には障害者の経済的自立を目指されていました。施設内には視聴覚設備の整った専門のパソコンルームが完備されており、トレーニングが受けられるようでした。又、別の部屋にはトレーニングマシンが数台あり、リハビリやトレーニングができるようになっておりました。生活体験ができるグループホームのような部屋もあり、そこで宿泊訓練のような体験ができるようでした。一つの施設内で就労から生活体験までトータルな視点で生活の自立というものに取り組んでおられるのがすごいと思いました。

違う文化も目で見て体験することができ楽しい経験となりました。

## 「交流セミナーを終えて」

福祉心話会 所長 清川 隆洋

皆様ご無沙汰しております。一般社団法人福祉心話会の清川と申します。無事帰国し、「韓国の夜も懐かしいな」と思っていたところ、金井事務局長から事業所に電話があり、内容は以下のとおりでした。

「日韓障害者施設交流セミナーお疲れ様でした。今回の研修の感想を清川さんに書いていただこうと思ひまして電話しました。」大役でした（涙）。

この度の研修は諸先輩方にご同行させていただき様々な勉強をさせていただきました。初日の懇親夕食の際には自己紹介を含め各テーブルにて現在の施設での取り組みや今後の課題等のお話を聞くことができました。先のイム・テソン先生の講演では障害者の性に対する考え方や国の財政は厳しいが地域が協力的であること、知的障害者と知的能力障害者の 2 つのカテゴリーがあることや、経営者と労働組合と行政と親の会の関係性、施設運営に対する公益性の認識など様々な観点からのお話を聞くことができました。

自由行動での「あかすり」の体験や繁華街での買い物では円高を感じることもできましたし、「ソナム福祉財団」での施設見学では実際に利用者にも触れ合うことができ、施設運営でも日本よりも進んだ地域での在り方を聞くことができました。世界遺産 2 箇所の見学も刺激的で、水原華城の美しさや昌徳宮の壮大さも感じる事ができ、良かったです。

2泊3日の体験の中で、言葉もわからない、文字も地理もわからない、時代背景や宗教観、価値観、果ては作法まで日本と違う環境に身を置くことで、知的障害者の利用者に対し、改めて何が重要なのかを体験できた気がします。「常識」や「当たり前」を伝える中で普段自分がいかに支援者として相手の立場を意識しなければならないか。そんな基本的な事を再度認識させられました。

自由時間での心細さや、土地勘がない中での行動の不安や緊張感、買い物できた時の嬉しさや、言葉が通じた時の感動は久しく感じることは無かったです。初心を大事に今後も仕事に励む良い機会をいただきました。まことに乱筆ではありますがこれで私の感想とさせていただきます。



# 第6回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会を終えて

スポーツ委員長 山畑 道雄

身体・知的障害者の合同開催、開催日の分散化、競技会場の固定化を試行実施して2回目になる今年は、昨年同様三木市・神戸市・明石市を会場に、5月19日が水泳・卓球を、5月26日は陸上・フライングディスク・ソフトボール・サッカーを、5月27日にはボウリング・バーレーボール・バスケットボウルの各競技で熱戦が繰り広げられました。種目によっては精神障害者の参加もあり、文字どおり3障害合同開催となり、参加者は役員等を含め総勢約3200人と今年も大規模な大会となりました。

県知協は例年この大会の知的障害の部の事務局を務めていますが、県の障害者スポーツ協会との打合せ、申込み説明会、競技説明会の開催、冊子印刷の準備、参加申込みの取りまとめ、県知協会員の中から選任された各競技責任者を主とした会場との競技運営の打合せ等々大会開催に向けて今年も多忙でありました。この大会を運営する上での課題等を整理し今後に向けて協議検討し、これからも障害者の皆様に喜んで頂ける大会にしていきたいと考えています。

また6月12日には全国大会への派遣選手選考会があり、10月13日から15日に開催される第12回全国障害者スポーツ大会「ぎふ清流大会」では各種目の代表選手が優秀な成績を収めることを期待しています。全国大会参加に向けて合同練習を実施し、9月26日には兵庫県選手団の結団式が予定されています。



### 男子リレー結果

- 1位 姫路特別支援学校
- 2位 スペシャルオリンピックス  
日本・兵庫西宮プログラム
- 3位 いなみ野特別支援学校



### 女子リレー結果

- 1位 いなみ野ランニング協会
- 2位 姫路特別支援学校

神戸地区の報告

神戸市知的障害者施設連盟  
会長 岩田 峰幸

4月20日、平成24年度総会で前副会長佐古田修氏（清心ホーム施設長）の退任で有川洋司氏（神戸明生園施設長）が副会長となり大幅な役員交代なしで3期の後半が始められました。

4月28日、総務省から前会長井上勝彦氏に藍綬褒章の発表があり、5月30日、前会長井上氏はご夫人を同伴して皇居において藍綬褒章を受章されました。連盟としては、その榮譽に対して6月29日、楠公会館で中村副市長をはじめ市知連関係機関の来賓22名と施設長方33名、計55名の参加者で井上夫妻をお招きし、祝賀会を催しました。

今年の神戸市要望事項提出期限が来ているので正心座長率いる調査研究部会に依頼、2点について要望することにしました。

一つは連盟施設短期入所利用154床の利用状況を調査したところ2ヶ月以上利用している者が76人もいることが判明、その他施設と契約を結んでいる利用者を加えると空き床が限られてきているので短期入所利用の実態調査と利用枠を広げる等の方策を要望します。

二つ目に連盟施設（通所、入所）16軒合わせて915床の中で65歳以上の高齢者が入所93人、通所22人となり計115人を数え、入所をしている利用者の平均障害程度は4.7を示し重い知的障害に加え高齢化が目に見えています。

高齢による身体機能の低下があり、まず、入浴、トイレ、食事介助の支援が必要になってきています。そして、車椅子、歩行器やポータブルトイレの部屋への持ち込みにより廊下、居室が狭くなってしまいます。どうしても施設機能を高めなければならないことが急務となってきました。利用者の在籍年数が長くなり、施設利用の空き床がなくなることによって施設利用をしたくてもできない家族が生じ悪循環となっているのが現状です。

親亡き後の心配が40年前と少しも変わっていません。職員の介護研修と高齢者の実態把握、施設現場の介助状況、老人介護施設への円滑な移行等については是非とも、神戸市障害者福祉計画に盛り込んで頂けるよう方策を要望します。

7月17日、恒例の市社協主催神戸市民間社会福祉施設職員激励会がポートピア・ホテルで開催、500余名の福祉施設職員が一同に会し神戸市長をはじめ関係機関の方々から激励を戴き懇親会が行われました。

7月19日～20日にかけて、第55回大都市社会福祉協議会・千葉市大会があり市社協施設部会障害福祉研究会で神戸市要望事項のことも発言をさせていただきました。

阪丹但地区の報告

社会福祉法人協同の苑  
生活介護事業所 さつき 玉木 伸宜

阪丹但地区では今年度も研修を重ねることにより職員のキャリアアップを図るとともに、施設間・職員間のつながりを持てる機会にできればと考えています。



今年度の研修としましては

- ① 中堅職員・管理職研修 『特定相談? サービス等利用計画? 今後の支援の行方のはなし~今からやっておきたい3つのことプラス1~』
- ② 支援員研修 『地域で暮らす~支援者に求められる視点~』
- ③ 支援員研修 『虐待防止・人権研修』(仮)
- ④ 支援員研修 (阪神福祉事業団共催) 『自閉症研修』(仮)
- ⑤ 給食職員研修 『内容未定』
- ⑥ 事務職員研修 『内容未定』

以上の6回を予定しております。

残念ながら昨年度まで利用していた補助金の廃止や減額により、回数は減りますが、内容濃く、実りあるものにしていければと考えているところです。

社会福祉法人や施設・事業所が否応なく市場原理主義に巻き込まれ、生き残っていくことを意識せざるを得ず、「運営」よりも「経営」について語られることが増えてきているのが現実ですが、私たちが対象としている方々の多くは、その市場万能主義の視点からでは存在意義が希薄に(時には否定的に)扱われかねない人たちであり、それに対抗する概念や思想、実践が私たちには求められています。

このような状況の下、今年度の研修は、現在の社会動向に対応しながらも、「利用者さんに『主体的に生きている』という実感を持っていただけるような支援を展開していくために我々に必要なものは何か」という基本に立ち返るものになっていると思っています。

なかなか相容れ難い二つの考え・価値観ですが、単純に片方を否定するだけでなく、より良い状態を思い描き、共有し、そのために我々が何をすべきか考えていく機会になることを期待しています。共に学び、力を合わせて利用者さん、ひいては全ての人にとってより良い社会を作っていければと思っています。

何かご意見やご希望がありましたらお知らせください。



播淡地区職員代表者会

会長 尾崎 勇一 (あかりの家)

播淡地区では全施設の職員代表者を下記4委員会に区分し、各委員会での検討結果を生かした取り組みを行っています。24年度の各委員会取り組み状況を報告します。

#### ① スポーツ委員会

平成24年6月1日(金)、加古川運動公園陸上競技場において「第24回ばたん親善運動会」を実施しました。播淡地区45施設及び開催地(加古川市)5施設の計50施設1,191名の方に参加いただきました。今年は、ここ数年来の課題でもあった参加利用者さんの高齢化を踏まえ、競技距離や人員配置等の見直しを行い、例年以上に安全面に配慮した進行を心がけました。幸い大きな事故もなく、天候にも恵まれ、多くのボランティアの皆様方のご協力のもと無事終了することができました。

#### ② 研究委員会

平成24年8月22日(水)~23日(木)、ニューサンピア姫路ゆめさきにて「第26回播淡地区施設長・職員一泊研修会」を開催予定です。研究委員全員が役割分担する中で、出来る限り自分たちで作り上げていくことを意識した企画を組んでいるところです。



身近で遠い“播淡地区各施設”“相談支援事業所”の現状を各現場職員に語ってもらい、“虐待防止法を含む制度の今後や課題”の講演と“発達障害の特性と感性”と題した当事者・ご本人の講演を予定しています。施設長、職員互いが、情報共有、課題交換していくことで「絆」を深め、福祉施策がどう変化しようとも、『福祉の原点とは一体何か』を改めて考え、自己研鑽を積み上げていく研修になって欲しいと願い進めています。

### ③ 研修委員会

毎年、年 2 回開催しています。今年第 1 回目は 7 月 27 日(金)、姫路市自治福祉会館にて『相談支援』をテーマに開催しました。午前は、愛心園・兵庫県西播磨圏域コーディネーター中川裕美子氏に「相談支援で大切にしたいこと」と題したご講演をいただき、そのご講演内容を踏まえた上で、午後からは、「相談しやすい人になるために」について、参加者 71 名が 10 グループに分かれ討議しました。次回 2 回目は 11 or 12 月に開催予定です。

### ④ 文化委員会

平成 24 年 11 月 30 日(金)、「第 21 回ばんたん・ゆうあい文化祭」を開催予定です。出演 17・見学 23 施設と、多くの施設から参加希望の申し込みをいただいています。今年も、各施設の特色あるいは工夫を凝らした寸劇や合唱・合奏等、会場が一体となって楽しいひと時を過ごせることと思われれます。より良い文化祭となりますよう企画運営していきたいと思ひます。

## 予 告 コ ー ナ ー

### 1. 福祉のつどい

平成 24 年 9 月 26 日 (水)  
10:00 ~ 15:30 (受付 9:30 ~ )  
神戸メリケンパークオリエンタルホテル

重症心身障害や知的障害のある人の人権、権利擁護を考える時の根本となる意思決定の援助はどうあるべきか、その流れに添って施設での虐待の背景と防止に向けた取り組みを学ぶ企画です。

講演A「重症心身障害や知的障害のある人の意思決定をどう支えるか……」  
埼玉大学 宗澤忠雄 准教授  
講演B「虐待に至るメカニズム、その防止のシステムと運用事例について」  
兵庫県児童養護連絡協議会 吉田隆三 会長

参加目標を全体で 310 名としました。  
ご協力をお願いします。

### 2. 第 35 回近畿地区知的障害関係施設長会議

平成 24 年 11 月 21 日 (水) ~ 22 日 (木)  
神戸メリケンパークオリエンタルホテル

1 日目・開会セレモニー  
・中央情勢報告  
・講演Ⅰ「施設におけるリスクを法的視点から見る」  
池田佳史 弁護士  
・講演Ⅱ「かりいほの経営理念とその取り組みについて」  
石川 恒 施設長  
・ナイトセッション

2 日目・講演Ⅲ「知的障害者施設においてなぜ虐待が起こるのか」  
桃山学院大学 松端克文 教授  
・シンポジウム  
向陽学園 安城一郎 施設長  
かりいほ 石川 恒 施設長  
学識経験者 松端克文 教授  
・閉会セレモニー

近畿全体で 200 名の参加を目指しています。大勢参加して、10 月施行の「障害者虐待防止法」に備えて参りましょう。

### 3. 県知協施設長会

平成 24 年度中に開催 (兵庫県福祉センター)

障害者総合福祉法をめぐる喫緊の関心事を中心に 3 年越しで年一回開催予定の第 1 回目。追ってご案内します。

## 《日誌抄》

1	4日	兵庫県新年交礼会	神戸市	兵庫県公館
	19日	市知連新春交歓会	神戸市	楠公会館
	25日	平成24年度賀詞交換会(守る会7団体主催)	神戸市	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
	26日	第8回会長・副会長会	神戸市	県知協事務局
	26～27日	第12回生活支援部会全国大会〔愛知・ウインクあいち〕	愛知県	愛知・ウインクあいち
2	1日	第4回50周年特別委員会	神戸市	県知協事務局
	7日	第6回兵庫県のじぎくスポーツ大会エントリー説明会	神戸市	兵庫県福祉センター
	10日	第4回50年誌小委員会	神戸市	県知協事務局
	11日	近畿地区グループホーム・ケアホーム研修会	長岡京市	市立総合交流センター
	14日	第5回役員会	神戸市	兵庫県福祉センター
	16～17日	第48回近畿地区職員研修会	奈良県	奈良ロイヤルホテル
	21日	平成23年度日中活動施設長及び職員研修会	神戸市	あすてっぷKOB E
23日	中堅職員研修	尼崎市	尼崎市すこやかプラザ	
3	6日	50年誌の為の座談会	神戸市	ANAクラウンプラザホテル神戸
	8～9日	平成23年度全国部会・分科会協議会	東京都	TFTビル
	9日	県知協ニュース76号発送	神戸市	県知協事務局
	22日	第9回会長・副会長会	神戸市	県知協事務局
	28日	近畿地区第4回役員会	和歌山県	ホテルグランヴィア和歌山
4	2日	年度スタート	神戸市	県知協事務局
	17日	第1回役員会	神戸市	兵庫県福祉センター
5	8日	第1回近畿地区総会・役員会	和歌山	ホテルグランヴィア和歌山
	11日	第6回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会事前説明会	神戸市	兵庫県福祉センター
	17日	平成24年度協会総会	神戸市	兵庫県福祉センター
	19日	第6回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会(卓球・水泳)	明石市・三木市	県立障害者スポーツ交流館・三木山総合公園屋内プール
	21日	第1回会長・副会長会	神戸市	県知協事務局
	26日	第6回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会(陸上・FD・ソフト・サッカー)	三木市	三木総合防災公園
	27日	第6回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会(ボウリング・バスケ・バレー)	明石市	スーパーボウル二見・県立障害者スポーツ交流館
6	1日	創立50周年記念 日韓障害者施設交流セミナー参加者説明会	神戸市	兵庫県福祉センター
	4～5日	全国的障害関係施設長等会議	東京都	東京国際フォーラム
	10～12日	創立50周年記念 日韓障害者施設交流セミナー	韓国	ソウル・仁川
	18日	第2回役員会	神戸市	県知協事務局
	21日	兵庫県 GH・CH 研修会	神戸市	兵庫県福祉センター
25日	近畿地区 GH・CH 研修会	神戸市	兵庫県福祉センター	
7	2～3日	全国 GH・CH 等研修会	北海道	ロイトン札幌
	6～7日	全国宿泊型自立訓練事業等(旧通勤寮)職員研究大会	東京都	ホテルイースト21東京
	10日	7団体 福祉の集い第1回打合せ会	神戸市	県知協事務局
	17日	第2回会長・副会長会	神戸市	県知協事務局
	24日	創立50周年記念式典・講演会・懇親会	神戸市	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
	30日	7団体 福祉の集い第2回打合せ会	神戸市	県知協事務局

編集  
後記

前線が長く居座って、湿舌という現象が西日本に豪雨被害をもたらした今年の梅雨。打ち続いて、太陽の接近を感じさせるような猛暑が多くの熱中症を惹き起こした今年の夏。昨年、東日本大震災と重ね合わせて、過酷な自然の中で生活を営み、生かされていることを改めて心に刻みつけています。

さて、盛り沢山の第77号をお届けいたします。創立50周年の企画づくめの今年度ですが、記念誌発行の3月迄、今しばらくご協力をお願い致します。

(協会事務局：C、K)